

と多収品種の開発を継続してきたことが、現在の飼料用イネ品種の育成につながっている。水田を有効に維持・活用し、食料自給率の向上を図るには、現在進められている飼料用イネ生産の取り組みを成功させることが必須である。今後も飼料用イネ品種の育成を継続し、低コストで栽培しやすい品種を育成することにより、飼料用イネの生産拡大に貢献していきたい。

〈参考資料〉

- 1) 飼料用米の生産・給与技術マニュアル(2016年版)
http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/ricm2016.pdf
- 2) 稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル 第6版
http://souchi.lin.gr.jp/skill/pdf/manual_vol6.pdf
- 3) 米とワラの多収を目指して2017
http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/pub2016_or_later/files/kometowara2017.pdf
- 4) 特願 2012-150187「4-HPPD 阻害剤に対する感受性を判定する方法」
- 5) 特願 2010-293451「4-HPPD 阻害剤に対する抵抗性又は感受性が高められた植物」

コラム

除草剤の使い方

「ある農家で、田植えが終わった後、旦那さんが入院してしまった。普段は除草剤散布を、旦那さんが行っていたのだが、今回は奥さんが行うことになった。いつも草が残ってしまうので、薬剤の注意書きをよく読んだ。田んぼに水をしっかり 5cm張って散布した。水を張るのには、思ったよりも時間が掛かって大変だった。いつもより雑草の無い、きれい

な田んぼになった。」という実際にあった話を例に出して、しっかりと水を張って除草剤を散布することの重要性、使い方によって(人によって)効果が変わってくることの説明に使っていました。毎年は使えませんが…。「わかりやすい例」を使って話すことを、心がけています。

眞部 徹(茨城県)